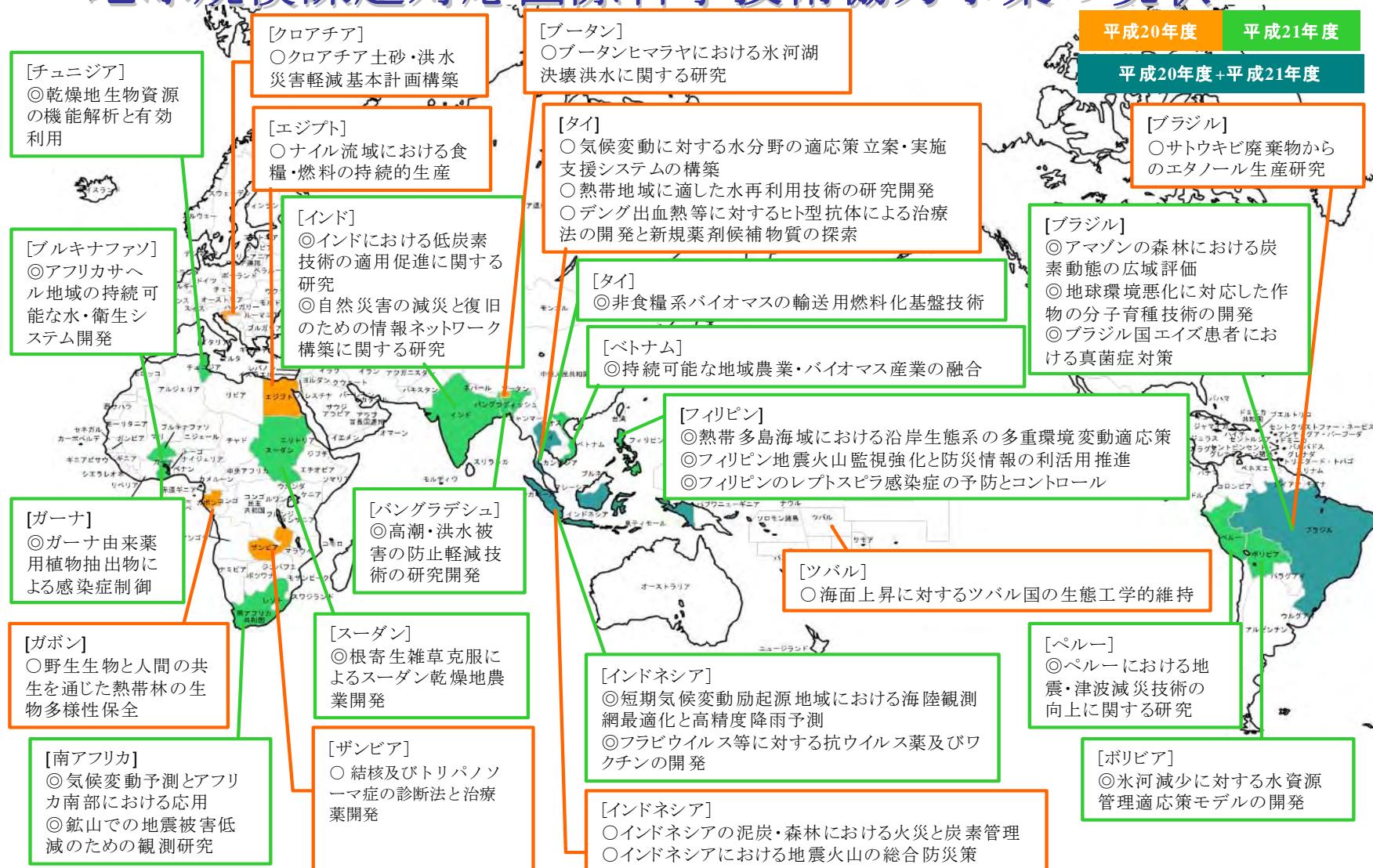


III-2. 開発途上国等との科学技術協力の強化

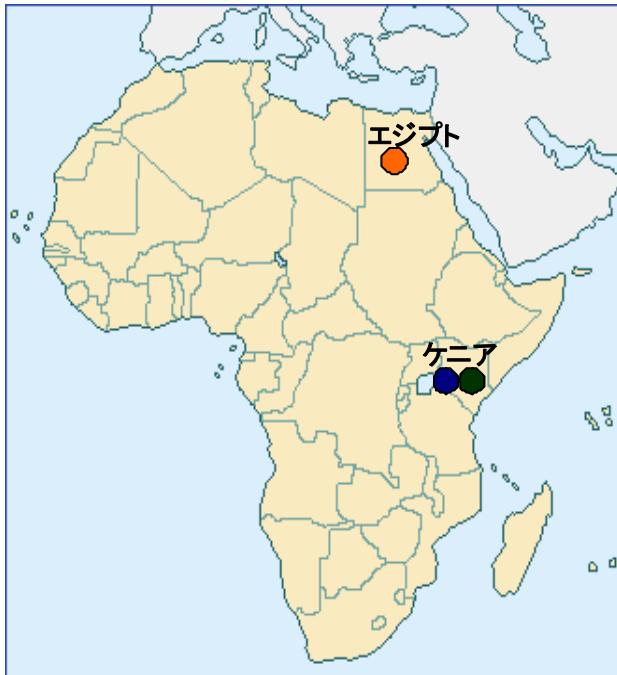
地球規模課題対応国際科学技術協力事業の現状



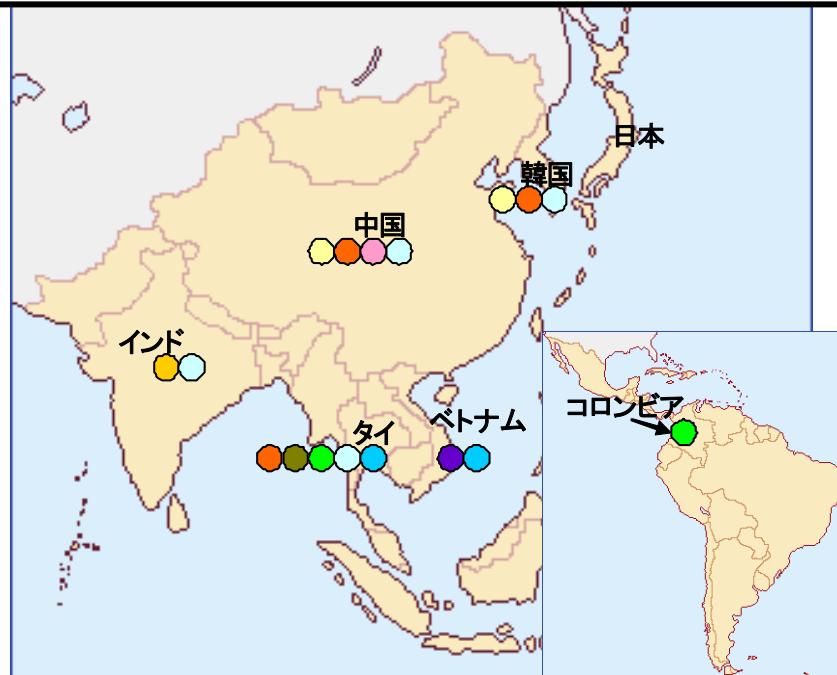
III-2. 開発途上国等との科学技術協力の強化

■ アジア・アフリカ科学技術協力戦略推進プログラム採択課題(平成21年度科学技術振興調整費)

先進技術を基盤とした地域共通課題解決型共同研究採択一覧



- 「アフリカにおける「顧みられない熱帯病(NTD)」対策に資する多重感染症の一括診断法の開発」
金子 聰教授(長崎大学)
- 「鳥インフルエンザ治療薬の国際共同開発研究」
萩原 正敏教授(東京医科歯科大学)
- 「アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子疫学研究」
藤岡 利生理学(大分大学)
- 「自然放射線被ばく研究ネットワークの構築」
床次 真司室長(放射線医学総合研究所)
- 「アジア世界文化遺産の高精細デジタル化研究」
井手 亜里教授(京都大学)



- 「東アフリカ稻作振興のための課題解決型研究」
浅沼 修一教授(名古屋大学)
- 「熱帯作物分子育種基盤構築による食糧保障」
閔 原明研究員(理化学研究所)
- 「タイにおける低炭素排出型エネルギー技術戦略シナリオ研究」
石原 慶一教授(京都大学)
- 「コンクリート構造物のLCM国際標準の確立」
上田 多門教授(北海道大学)
- 「次世代低環境負荷白色光源の開発」
岡田 龍雄教授(九州大学)
- 「先進Mg合金開発に関する東アジア連携の構築」
高島 和希教授(熊本大学)



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

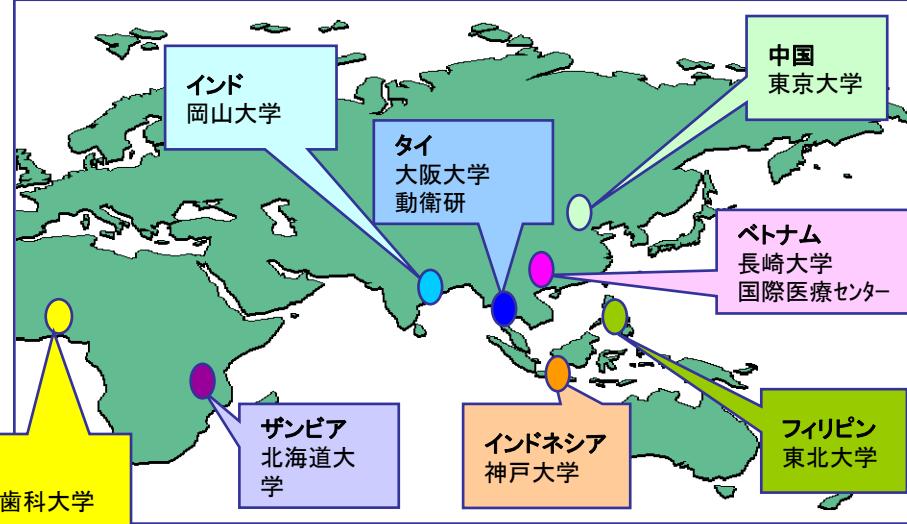
III-2. 開発途上国等との科学技術協力の強化 新興・再興感染症研究拠点形成プログラム

【概要】(H17～H21)

アジアを中心とした新興・再興感染症の発生国あるいは発生が想定される国に、現地研究機関との協力の下、海外研究拠点を設置するとともに、国内の体制を整備し、感染症対策を支える基礎研究を集中的・継続的に進め、知見の集積・人材育成等を図ることを推進。

- 海外研究拠点の設置とこれらのネットワークの構築
- 地理的意義、拠点機関の専門性、国際貢献・共存共栄の観点からの相手国の公衆衛生面等への貢献等を勘案した研究を実施

ガーナ
東京医科歯科大学



【主な成果】(H17～H21)

- 平成20年度までにアジア・アフリカの8カ国に12の海外研究拠点を形成。
- 新興・再興感染症に関する基礎的知見・情報の蓄積
- 感染症研究分野における人材育成や相手国との人材交流

【具体例】

- 高病原性鳥インフルエンザH5N1のヒト感染をベッドサイドや検疫所などで迅速に診断できるキットを開発。
- 原因病原体不明試料からの病原微生物自動同定システムを開発。ザンビアの新興感染症と思われる発生事例に応用。
- 新型インフルエンザとは別に、ブタに蓄積されている鳥インフルエンザがヒトで増殖しやすいパンデミックウィルスに変化していく可能性があることを確認し、その情報を厚生労働省等の関係機関などへ提供。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN